



特集 私たちでつくる「住みよいまち」

—住みよいまちづくり推進企画活動補助事業 20年の出来事とこれからへの期待—

事業の始まりから20年を経た今年度、補助金に関わってきた市民グループや補助金審査員などが集い、皆で作った年表を眺めながら20年間を振り返り、これからの「住みよいまち」について語るワークショップを開催しました。ここでは、事業紹介とともに、ワークショップから生まれた声を報告します。

県下では先駆的な取り組みとして始まった補助事業は、この事業は「住みよいまち」を目指す市民グループが自ら企画・実践する活動に対し、市が補助金で支援するものです。合併前の旧福間・津屋崎町で、各部署が担当していた「市民活動支援の補助金」を一本化し、誕生しました。分野を問わず、申請できる補助事業は、事業開始当初、県下でほとんど取り組みがなく、先駆的なものでした。

事業開始から今年度までの21年間に、歴史・文化・スポーツ、子育て、教育、多文化共生、地域活性化など、多彩で幅広い165の企画活動が実施されています。審査会長の加留部貴行さんは、他自治体の類似事業と比較し、「福津市の企画活動は、明るく、前向きなものが多い」と話します。

新たに誕生したグループなど、多彩で幅広い分野の165の企画活動を実施する75の市民グループが躍る

補助金を活用した市民グループは75グループにのぼり、中学・高校・大学生からシニア層まで、多様な方が活躍しています。本事業をきっかけに、旧2町の住民が協力して結成したグループや、学生と手を組むグループなど、異なる属性が混ざり合う新しいグループも誕生しました。年度ごとの企画活動は、ワークショップの様子とともに、次のページから紹介しています。

「調査研究」から冊子が誕生

これまでに8種類の冊子が誕生。「自分たちの地域のことを把握し、形に残していく」という想いでこの活動は、他の自治体にはない、福津市の特徴」と加留部さんは言います。



福津の市民活動の特徴

「子育て分野」の企画活動が多い

暮らしの中での「子育て」は大切な要素。子育て中や子育て後に、暮らしを住みよくなりたいという想いから生まれた子育て分野の活動は、事業初年から絶え間なく取り組まれています。



▲事業初年度の体验活動

想いが込められた活動を審査する点が、他の補助事業と異なる特徴です。企画活動の募集から実施報告までの1年間の流れを、次ページに整理しました。

福津の市民活動 3つの傾向と変遷

後期2020年ごろ~

コロナ禍を機に、自分の暮らしの中で大切にすることを見つめ直す時期に。価値観やまちづくりへのニーズも多様化。SDGs未来都市となり、企画活動の幅が広がりました。

中期2015年ごろ~

世間では、民間の助成金やクラウドファンディングが充実。初めて市民活動を行うグループからの申請が増えた時期。事業へ組織力を育む意味合いもプラス。

初期2005年~

旧2町で市民活動を行っていたかたがたが集い、大規模なイベントや講座などに挑戦した時期。活動を通して、互いのまちを知り合い、新しいつながりが生まれる機会に。

企画活動の内容や市民グループの傾向から見て、事業には次の3つの傾向がありました。





住みよいまちづくり推進企画活動の20年間をのぞいてみよう

20年間に補助金を交付した「住みよいまちづくり推進企画活動」の名称を一挙紹介。またワークショップで出た声を紹介すると共に、活動への想いを4つのグループにインタビューしました。

This image is a collage of various community development projects in Fukutsu City, Japan, from 2005 to 2011. It includes hand-drawn style illustrations and text boxes describing different initiatives.

Top Right: 交付決定 グループ数 8 グループから START

Top Left: 「共に何かをしよう！」というメッセージが強くなる！

Top Center: 以前は、市民活動の中でも先進的な集まりでは、同じメンバーになることが多かったが、今は新しい出会いも増え、活動者の幅が広がっていると感じる

Middle Left: 連携するのもアリ!?

Middle Center: 東日本大震災発生 (2011年3月) → 2008年～2011年 学生と地域とのコラボ企画が誕生！ 「すみやすい」じゃなくて「すみよい」

Middle Right: 県の研修で学んだことを福津市で生かしたいと思いました。 予算規模 1,000万円から START

Bottom Left: 合併直後の3年間の募集テーマ

Bottom Center: 前向きなものが多いいふじょう！ 福津ならでは！? 共働コース START 2010年 ~市とグループが共働で地域解決を目指す~ 初年度のテーマは… 認知症サポーター 共生社会 男女共同参画 みんなで一つ一つ楽しくつくってきたという雰囲気を感じた 手段と手法がパワフルだ！

Bottom Right: 第1次まちづくり計画策定 「人を、明日を、誇るまち。福津。」 Point 調査・研究からの初の冊子 「福津の絵馬」 何かをしたいという想いの実現に補助金を活用しました。今はNPO法人になりました。

Timeline (Left to Right):

- 2005 ■ 青島広志の「ごんにちはモーツアルト」/秋のファミリー・コンサート/「あそび・体験」いきいき子ども講座
- 2006 ■ 津文化親善交流会訪問団(韓国)福津市来訪歓迎交流会(仮称)/「ことどもにやさしいまちづくり」声合唱団コンサート/「忍者まつり」/忍者になってまちをあそぼう!/福津市秋の大漁まつり/「福津の架け橋開通祭(仮称)
- 2007 ■ 大峰山ウォーキング&調査企画/親のためのシュタイナー教育連続講座/慶州・福津文化親善交流会(韓国慶州市)日本訪問団2007年福津市来訪歓迎行事/福津・慶州文化親善交流会/「ことどものからだと心の栄養を総合的に考える/紺屋藍の家再現/スポーツエスター07/第3回福津ふれあいキャンプ/たっぷりどっぷり中国交流会&おもしろサイエンス in 福津/谷川俊太郎・谷川賢作「朗読と音楽のコンサート/津屋崎千軒をはじめとする市内の歴史・観光資源を結んだ観光・健康まちづくりの調査研究」「忍者まつり」「忍者になつてまちをあそぼう!」「福津市の自然を活用した環境教育のまちづくり企画/福津の絵馬」づくり
- 2008 ■ うみつ子くらぶ夏休み編/津文化親善交流会(韓国慶州市)日本訪問団2008年福津市来訪歓迎行事/福津・慶州文化親善交流会/「父と暮せば」/福津市ぐるっと周ウォーキング&調査企画/「ぶくぶく子どもフェスティバル他」「リンサイエンスキャンプ in 福津/漁港や津屋崎漁港/「ぶくぶく子どもフェスティバル」で愛・ふれ愛・つながり愛・おきくなあれ子どもたち
- 2009 ■ うみつ子くらぶ/五感で自然にふれて豊かな感性を育む幼児期からの環境教育/「ことどもにやさしいまちづくり」実現しよう/子どもの居場所をやさしいまちを実現しよう/紺屋藍の家再現と津屋崎千軒景観づくり/三世代交流の居場所づくり/第4回ふくつスポーツフェスタ'08/地球環境スポーツふくつビーチサッカーフェスティバル2008/津嘉山正種ひとり語り「父と暮せば」/福津市ぐるっと周ウォーキング&調査企画/「ぶくぶく子どもフェスティバル他」「マリンサイエンスキャンプ in 福津/地獄神社 V.O.I. 4ミヤジック(MIYA-JICK) in 宮地獄神社 V.O.I. 4ミヤジック(MIYA-JICK) in 宮地獄神社ぐるっと一周ウォーカリーとマップ作りたなる伝統芸能の発掘を目指して~
- 2010 ■ うみつ子くらぶ/慶州・福津文化親善交流会訪問団(韓国)福津市来訪歓迎交流会/第3回30世紀福津フォーラムの開催/第6回ふくつスポーツフェスタ'10/男女がともに歩むまちづくり講座/2010年福津ビーチサッカーフェスティバル/認知症サポートサーの養成講座を広げよう/福津市小中学校巡回ノーマライゼーションコンサート/ぶくぶくおしゃべりカフェ&ぶくぶく子育て支援セミナー/RockFestival in 宮地獄神社「MIYA-JICK'01」/わくわく冒險遊び場2011～子どもが主体的に遊べる野外の遊び場づくり
- 2011 ■ 生き生き子どもの表現ワークシヨウブ/慶州・福津文化親善交流会訪問団(韓国)福津市来訪歓迎交流会/第7回ふくつスポーツフェスタ'11/地球環境スポーツふくつビーチサッカーフェスティバル2011/津屋崎塩田物語/RockFestival in 宮地獄神社「MIYA-JICK'01」/わくわく冒險遊び場2011～子どもが主体的に遊べる野外の遊び場づくり

—— みんな歴史が好きだからできました ——
Interview Vol.2 福津郷土史会 大賀 康子さん

私たちは、補助金を活用して「福津の絵馬」という冊子と「吉原文書追加目録」を作成しました。

メンバーの得意分野や知識を生かしながら、市内各所の神社に残されている絵馬を調査、また、吉原家の解体に伴い郷土史会に寄託された約2千

点の文書を整理し、まとめています。
地域の歴史や文化を再確認でき、完成できたことが自信になりました。

また、事業報告会の中で「市の助成金でこのような本が作られ喜ばしい」と講評があり「頑張って良かった」と感じたことを今でも覚えています。



認知症の人が住みやすいまちづくりを —————
[Interview Vol.1] 認知症セーフティネットワーク蓮華草 松永 幸代さん

[Interview Vol.1]認知症セニティネットワニク蓮華草 松永 幸代さん

認知症に関する啓発活動を継続的に行う必要がある」と
言っていたことから『認知症サポーターの養成講座を広げよう』
という事業を行いました。それから15年間、講座を通して、認知

のかたへの関わり方
え、一人でも多くの
認知症のことを理
できるように努めて

います。また、この事業を通して、講座で使用するテキストを作成し、他の市民活動団体とのつながりも生まれました。

歳を重ねると認知症のリスクが増えます。自分自身が認知症になったときに「住みよいまち」を自分たちで作ることが大切だと考えています。



講座の寸劇で認知症の人優しく寄り添う家族



「誰か」ではなく、「自分たち自身の手」でつくる 住みよいまちを願うグループの活動は今後も続きます



橋内 この事業は、市民活動への挑戦のキッカケづくりを担っていると思います。

福井 中学・高校生や大学生などの若い世代が、やつてやつて、みたいことに挑戦する機会も広げたいと考えます。仲間と一緒に市民活動や市民共働を学んで、まちや地域を想い、そこに関わる人たちと共に生きていいくという環境づくりにつながると思います。この事業やキッカケラボの取り組みを通して、新たな挑戦を温かく迎え入れ、応援する環境づくりは引き続き進めていきます。

福井 中学・高校生や大学生などの若い世代が、やつてやつて、みたいことに挑戦する機会も広げたいと考えます。仲間と一緒に市民活動や市民共働を学んで、まちや地域を想い、そこに関わる人たちと共に生きていいくという環境づくりにつながると思います。この事業やキッカケラボの取り組みを通して、新たな挑戦を温かく迎え入れ、応援する環境づくりは引き続き進めていきます。

加留部 市民の皆さんの方量や認識などの変化に応じて、

橋内 この事業は、市民活動への挑戦のキッカケづくりを担っていると思います。

福井 中学・高校生や大学生などの若い世代が、やつてやつて、みたいことに挑戦する機会も広げたいと考えます。仲間と一緒に市民活動や市民共働を学んで、まちや地域を想い、そこに関わる人たちと共に生きていいくという環境づくりにつながると思います。この事業やキッカケラボの取り組みを通して、新たな挑戦を温かく迎え入れ、応援する環境づくりは引き続き進めていきます。

雪松 この事業は、単にお金を出すのではなく、福津で市民活動を行う「意味」も考えるキッカケになっていると感じます。グループの考え方や活動内容を固定化せず、周りの声を聴き、話し、考え、改善しながら「これでいいのか」を考えほしいし、審査員の私たちも共に考えていくみたいです。

橋内 活動は立ち止まって、振り返ることも大切です。この事業やキッカケラボを生かし、さまざまな人と共に考えることで、次の一步を踏み出します。これからなると思います。

加留部 私は、この事業で、各々の活動や団体が成長していくことを期待しています。その際、福津のまちの成長や成熟の度合いによって、市民の皆さんがどのような状態を「住みよい」と捉えるかが焦点になると考えています。

福井 「住みよいまち」について、共に考え、共有し合うことが大変ですね。

橋内 まちの将来像に向け、行政だけでは追い切れない視点を顕在化させてくれる「市民活動」「市民共働」の役割は、ますます大事になっています。今のように皆で集い、活動を振り返る機会を設け、常に「住みよいまちとは何か」を市民の皆さんと共に考え、成長し続けるまちでありたい

開報告会を見学しませんか？

今年度の企画活動を終えた7グループが、これまでの活動の成果や、今後の展望を発表する報告会を開催します。

日程 3月27日(金)

場所 市役所別館大ホール

問い合わせ 市地域コミュニティ課 0940-62-5017、メール kyodo@city.fukutsu.lg.jp

報告会の開催について、今年度の7グループの詳しい情報は市公式ホームページをご覧ください。

のぞきあな ART 津屋崎

暮らしにアートを潜ませることで、アートと共に津屋崎のまちの魅力を楽しめる場をつくりたいと思っています。この活動が地域の活性化につながり、さらに幸福度の高いまちになることを目指しています。

主催者 のぞきあなARTプロジェクト 三浦直子さん

親子でサステナやさい体験

循環型コミュニティ菜園で、自然こそ学びの場であることを実感したことから、菜園活動を通した親子の体験の場で、大人も子どもも好奇心や面白さを自然から感じられる機会をつくりたいです。

主催者 ななしさいえん 仲村浩一さん

Sunset Beach Cleanup

地域内外の人々が集う場をつくり、地域商店の活性化や住民によるまちづくりで、地域を盛り上げたいです。また、津屋崎の暮らしだけで、ディープな魅力を市内外の人に広く知ってほしいです。

主催者 Sunset Beach Cleanup 柴田広輝さん

感覚の庭で、わたしを育てる

子育てで忙しく、自分の思いと向き合う時間が取れずに歯がゆい思いをしたのがきっかけで、活動を始めました。心の豊かさを取り戻すことができ、自分を表現できる場をまちにつくりたいです。

主催者 ハウスマスカン House mannequin 柴田園生さん

爪から健康を考え、日常に彩りを添えて人生100年時代を楽しもう！

地域のかたが気軽に立ち寄れる場として、外出のきっかけにつながる活動をしています。参加者同士の交流を通して、自分にできることを活かした地域参加へつながるような環境づくりを大切にしています。

主催者 ふくふくネイル 吉田雅子さん

タイムカプセルの循環で地域社会の活性化

25年前に埋めたタイムカプセルの掘り起しをキッカケに、参加者それぞれの25年前、現在、未来への想いを共有し合える場を開催し、多世代交流と次世代への想いの継承を生み出したいです。

主催者 えがお咲顔の会 福島雅一さん

まちから守る、ふくつの海！ごみ拾い推進活動

身近なまちの環境が、少し離れた海の環境にもつながっていることを広く知ってもらうための活動を通して、一人でも多くの人が環境への行動を起こすこと、福津を自慢できるまちにしたいです。

主催者 くらげれんごう 山崎唯さん



住みよいまちに向けた、この事業への期待 —審査員と福井市長の座談会にて—

審査員の皆さんと市長で、市民グループ、審査員、市職員によるワークショップを振り返る座談会を11月16日に開催し、住みよいまちづくり推進企画活動補助事業へのこれからの期待を尋ねました。

変化するまち、新しい力

福津市は合併以降、旧2町の特徴が融合し、徐々にまちが成熟。近年ではコロナ禍や新しい住民の流入に伴って新たな価値観が浸透するなど、絶えず変化しています。市民活動支援を行う「市未来共創センター」キッカケラボ」を入口に、新たな活動者も誕生しています。

加留部 福津市は合併以降、事業へ提案する活動者の想いも変わりました。新しい思考を持つ人たちが現れ、まちが変わっています。初めての活動でも「とりあえず、1回やってみよう」と挑戦する姿勢がとても大切だと感じています。

橋内 新しい市民活動が生まれていて、まちに明るい未来が見えてくるような気がしています。初めての活動でも「とりあえず、1回やってみよう」と挑戦する姿勢がとても大切だと感じています。

令和7年度の補助金交付グループに、どのような想いで活動しているのか聞きました。